

中学校の運動部活動に関する研究

藤原 誠 堺 賢治¹⁾

A study on the athletic club activities of junior high school

Makoto Fujiwara and Kenji Sakai¹⁾

Key words : junior high school , athletic club activities , school life

(Bulletin of Department of Physical Education, Faculty of Education,
Ehime University, 6, 25-34, March , 2009)

キーワード: 中学校, 運動部活動, 学校生活

I 緒 言

生涯スポーツ社会の実現が政策目標とされる今日、スポーツを取り巻く環境は徐々に変化を見せ始めている。全国各地で総合型地域スポーツクラブが創設され、年齢や性別を問わない、また競技レベルやスポーツへの志向等も様々な人々を受け入れることのできるスポーツクラブの育成が進められている。豊かな社会、豊かな生活を実現するためのスポーツの重要性が認知され、社会的な取り組みがなされるようになったといえよう。

このような生涯スポーツの振興が求められる中で、子どもの頃のスポーツ経験やスポーツに対して抱いた意識は、将来のスポーツ実施を左右する重要な要素となっていることが予測できる。このような見地から、著者はこれまで小学生のスポーツ実施状況、あるいは、小学校から中学校への進学に伴うスポーツ実施の移行状況等について調査研究を行ってきた。その結果、中学校期のスポーツクラブへの加入者は小学校期に運動やスポーツに対して好意的な感情をもち、積極的に取り組んでいたことなどが明らかになっている。また、小学校から中学校への進学に伴い、スポーツクラブへの加入をやめる者、また、小学校や中学校で一度はスポーツクラブに加入するものの、途中でやめてしまう

者など、生涯スポーツの観点から考えると好ましくない状況が生起していることも明らかとなってきた。

中学校期におけるスポーツ実施の場としては、地域のスポーツクラブもあるが、圧倒的な加入者数を擁しているのは学校の運動部である。学校の運動部活動は学校教育活動の一環として、スポーツに興味と関心をもつ同好の生徒が、教師・顧問の指導の下に、主に放課後などにおいて自発的・自主的に運動やスポーツを行うものとされている。近年では、勝利至上主義の弊害や、生徒・部員数の減少や、それに伴う教員・顧問数の減少等、新たな問題も指摘されている。

運動部を巡っては様々な状況が指摘されているが、生徒にとっては不可欠な活動であり、将来のスポーツ実施にとっても大きな役割を担っているといえよう。また、運動部の活動は、生徒の重要な学校生活の領域を構成しており、学校生活全体にもつ意義も大きいものと思われる。

そこで、本研究では、中学校の運動部の活動実態を把握し、生徒の運動部に対する意識や満足度等を明らかにすることを目的とした。さらに、運動部非加入者との比較を通して、学校生活の満足度等に及ぼす影響についても検討する。

II 方 法

1. 調査対象

1) 愛媛大学教育学部
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

1. Faculty of Education, Ehime University,
Bunkyo-cho 3, Matsuyama-shi, Ehime, 〒790-8577,
Japan

愛媛県松山市内の中学校3年生、732名を調査対象とした。

2. 調査方法

質問紙による配票調査を実施した。有効回収数は714、有効回収率は97.5%であった。

3. 調査時期

2006年11月に調査を実施した。

4. 分析の視点

表1に示すように、運動部へは全体の約70%の者が加入している。

表1 運動部への加入状況

項目	実数	%
加入している	495	69.3
加入していない	219	30.7

運動部の活動実態や生徒の運動部に対する意識・満足度等を検討するに際しては、その運動部の競技レベルとの関係に着目して分析することとした。運動部の競技レベルにより、活動の実態や生徒の意識・満足度等に差異があるのではないかという見地からの分析となる。部の競技レベルについては、松山市内の中学校が出場する大会（市総体など）での成績により、表2のように分類した。「いつも上位である」および「どちらかといえば上位である」の両者を合わせて「上位」とし、「どちらかといえば下位である」および「いつも下位である」の両者を合わせて「下位」とした。「出場することはない」および「わからない」と回答した者は分析の対象から除外した。

また、運動部への加入者（上位および下位）と非加入者との比較を通して、学校生活の満足度等に対する影響についても検討する。

表2 部の競技レベル

項目	実数	%	分類
いつも上位である	126	25.5	上位
どちらかといえば上位である	135	27.3	上位
どちらかといえば下位である	106	21.4	下位
いつも下位である	75	15.2	下位
出場することはない	7	1.4	-
わからない	46	9.3	-

Ⅲ 結果と考察

1. 属性・スポーツ歴

(1) 性別

表3は所属する運動部の競技レベルと性別との関係を示している。上位、下位のいずれにおいても、男性は60%程度、女性は40%程度となっており、両者に差はみられない。運動部への加入では、女性より男性の方が多く加入していることを示す結果となっている。

表3 性別 (%)

項目	上位	下位	合計
男	59.8	58.6	59.3
女	40.2	41.4	40.7

n. s.

(χ^2 検定による。以下同じ)

(2) スポーツ歴

小学校時のスポーツクラブへの加入について示したものが表4である。上位では加入していた者が60%程度、加入したことがない者が30%となっている。これに対して下位では、加入していた者は48%程度、加入したことがない者が40%となっている。上位の方が下位に比べて小学校時にスポーツクラブに加入していた者が多くなっている。小学校、中学校と継続してスポーツを実施することにより競技レベルが高まることがうかがえる。

表4 小学校時のスポーツクラブ加入 (%)

項目	上位	下位	合計
加入していた	59.9	47.8	54.9
加入していたが途中でやめた	10.5	12.2	11.2
加入したことはない	29.6	40.0	33.9

p<0.05

2. 運動部の活動実態

(1) 練習日数・練習時間

表5は一週間当たりの練習日数を示している。運動部の練習日数の多さはよく指摘される場所であるが、今回の調査でもその傾向を顕著に示している。全体としては、週7日が最も多く50.3%、次いで週6日の42.1%、週5日以下は7.6%にとどまっている。

上位と下位を比較すると、下位に週5日以下の者がやや多く、週7日の者は上位でやや多くなっているが、明確な差異は認められなかった。

次に平日の練習時間を示した表6をみると、2時間未満の者は上位では22.9%、下位では34.1%となって

おり、下位の方が練習時間がやや短い傾向がみられるが、競技レベルと練習時間との間に関連は認められなかった。

表5 練習日数(週) (%)

項目	上位	下位	合計
5日以下	5.4	10.6	7.6
6日	43.0	40.8	42.1
7日	51.6	48.6	50.3

n. s.

表6 練習時間(平日) (%)

項目	上位	下位	合計
2時間未満	22.9	34.1	27.4
2時間以上3時間未満	59.3	50.6	55.8
3時間以上4時間未満	13.6	12.5	13.1
4時間以上	4.3	2.8	3.7

n. s.

(2) 大会への出場回数

表7は所属している運動部の年間大会出場回数を示している。上位、下位ともに5回以下が最も多くなっている。しかし、その値を比較すると、上位が48.1%であるのに対して下位では68.6%を占めており、下位においては約7割の者が5回以下となっている。これに対して、10回以上となるのは上位で20.1%、下位で8.7%となり、上位の方が回数が多くなっている。このように競技レベルが高いほど試合への出場回数が増える傾向にあるといえよう。

表7 大会出場回数(年間) (%)

項目	上位	下位	合計
5回以下	48.1	68.6	56.7
6~9回	31.8	22.7	28.0
10~14回	14.2	8.1	11.7
15回以上	5.9	0.6	3.6

p<0.001

(3) 活動への参加頻度

表8は運動部の活動への参加頻度を示している。全体としては活動への積極的な取り組み状況がみてとれる。上位では、いつも参加する者が78.2%、たまに休む者が19.5%となっており、半々くらい・参加しないことが多い者はわずか2.3%にとどまっている。下位では上位に比べて参加頻度は低くなり、いつも参加する者は66.9%となっており、上位に比べて10%程度少ない。たまに休む者や半々くらい・参加しないことが多い者は逆に下位の方が多くなっている。競技レベルが高い運動部に所属する者は活動に積極的に参加して

いることがわかる。

表8 活動への参加頻度 (%)

項目	上位	下位	合計
いつも参加する	78.2	66.9	73.5
たまに休む	19.5	28.2	23.1
半々くらい・参加しないことが多い	2.3	5.0	3.4

p<0.05

(4) スポーツに対する意識

スポーツをするうえで何が大切だと思うか、スポーツに対する意識について示したものが表9である。

全体では、一生懸命やれば良いと思う者が最も多く41.4%、これに次いで、やるからには勝つことが大事だと思う者、楽しくやれることが一番だと思う者が28%ないし27%で同程度となっている。

χ^2 検定では競技レベルとスポーツ意識の間に関連は認められなかったが、上位では下位に比べてやるからには勝つことが大事だと思う者が多く、下位では上位に比べて楽しくやれることが一番だと思う者が多くなっている。上位では勝利を志向し、下位では楽しさを志向する傾向がうかがえる。

表9 スポーツに対する意識 (%)

項目	上位	下位	合計
やるからには勝つことが大事	32.6	21.8	28.2
一生懸命やればそれで良い	39.8	43.6	41.4
楽しくやれることが一番	23.8	31.3	26.8
あまり考えたことがない	3.8	3.4	3.6

n. s.

3. 部員との人間関係

(1) 部員数

部員間の人間関係について検討するまえに所属する運動部の部員数を示すと表10のようになる。

全体としては20人から30人程度のところが最も多くなっている。上位と下位を比較すると、下位で40人以上となっているところがやや多くなっているが、明確な差異は認められなかった。競技レベルと部員数は市の大会レベルでは関係ないといえよう。

表10 部員数 (%)

項目	上位	下位	合計
20人未満	27.4	26.8	27.2
20人以上30人未満	37.1	33.0	35.4
30人以上40人未満	17.0	12.8	15.3
40人以上	18.5	27.4	22.1

n. s.

(2) 部員との人間関係

運動部の活動を継続して実施していくためには部内の人間関係が良好であることが必要となる。小学生を対象とした調査研究では、スポーツクラブをやめた理由としてクラブメンバーや指導者との人間関係をあげる者も多い。

表11は同学年の部員との人間関係を示している。上位では、うまくいっているという者が60.0%を占め、下位の43.9%を上回っている。どちらかといえばうまくいっていない、あるいは、全くうまくいっていないという人間関係がうまくいっていないとする者は下位に多い。競技レベルの高い者は同学年の部員との良好な人間関係のもとで活動しており、この良好な人間関係が競技レベルを高めることにつながっているものと思われる。

表11 同学年部員との人間関係 (%)

項目	上位	下位	合計
うまくいっている	60.0	43.9	53.4
どちらかといえば うまくいっている	33.5	44.4	38.0
どちらかといえば うまくいっていない・ 全くうまくいっていない	6.5	11.7	8.6

p<0.01

表12は下級生の部員との人間関係を示したものである。全体的には、同学年の部員との人間関係に比べて、うまくいっているという者が若干減少する傾向がみられる。上位と下位を比較すると、その差異は同学年部員との人間関係に比べ、より鮮明となっている。下位においては、どちらかといえばうまくいっていない、あるいは、全くうまくいっていないという者が合わせると24.4%に及び、ほぼ四分の一の者が人間関係の不調を感じているという結果となった。

競技レベルの高い運動部では、同学年、下級生のいずれの部員とも良好な人間関係が結ばれていることが明らかとなった。

表12 下級生部員との人間関係 (%)

項目	上位	下位	合計
うまくいっている	55.6	40.6	49.4
どちらかといえば うまくいっている	37.2	35.0	36.3
どちらかといえば うまくいっていない・ 全くうまくいっていない	7.3	24.4	14.3

p<0.001

4. 指導者

(1) 指導者数

表13は所属する運動部の指導者数を示している。上位、下位ともに2人のところが最も多く過半数を占めている。これに次いで、3人あるいは1人が、それぞれ20%程度を占めている。指導者数に関しては競技レベルとの間に関連は認められない。

表13 指導者数 (%)

項目	上位	下位	合計
1人	17.1	19.3	18.0
2人	52.7	56.4	54.2
3人	19.4	19.3	19.4
4人	5.8	3.3	4.8
5人以上	5.0	1.7	3.6

n. s.

(2) 指導者の構成

運動部の指導はこれまで主に学校の教員が担ってきたが、少子化に伴う教員数の減少や教員の高齢化、また校務の多忙さ等もあり、教員が運動部の指導をすべて担うことは、なかなか困難な状況となってきた。

表14は運動部の指導者について、外部指導者の導入を含めた指導者の構成について示したものである。全体としては、学校の先生だけで指導しているとする者が圧倒的に多く70%を超えている。学校の先生と学外の指導者の両方で指導がなされているとする者、すなわち、外部指導者が導入されているという者は全体の四分の一をやや上回る26.0%となっている。

上位と下位を比較すると、上位の方が学校の先生と学外の指導者の両方で指導がなされており、外部指導者の導入が進んでいることがうかがえる。

表14 指導者の構成 (%)

項目	上位	下位	合計
学校の先生だけ	66.4	81.6	72.6
学外の指導者だけ	1.6	1.1	1.4
学校の先生と学外の指導者	32.0	17.3	26.0

p<0.01

(3) 指導者の指導頻度

指導者が練習の時にどのくらい指導に来てくれるのか、その指導の頻度について示したものが表15である。

毎回指導に来てくれる、および、ほとんど毎回指導に来てくれるという者を合わせると、上位では91.0%、下位では75.6%であり、上位の指導者の方が積極的に練習に参加し指導していることがわかる。

上位では教員に加えて学外の指導者が指導しているところが多く、この両者が協力して指導に当たること

で、十分な指導の頻度が確保されているものと思われる。今後の運動部の継続的な活動を保証するためには、このような外部指導者の導入も必要となるであろう。

表15 指導頻度 (%)

項目	上位	下位	合計
毎回指導に来てくれる	45.3	42.9	44.3
ほとんど毎回指導に来てくれる	45.7	36.7	42.0
ときどき指導に来てくれる	8.3	12.4	10.0
あまり指導に来てくれない	0.8	7.9	3.7

p<0.001

5. 活動に対する評価

(1) 練習日数・練習時間に対する評価

表16は練習日数に対する評価について示したものである。表5で示したように、一週間の練習日数は90%を超える者が6日または7日となっているが、この練習日数について70%程度の者はちょうどよいと評価している。上位と下位を比べると、少なすぎるという者が下位で多くなっている。これは練習日数が5日以下の者が下位で多かったことと関係しているように思われる。競技レベルの低い運動部に所属する者もある程度の活動日数が取れることを望んでいるといえよう。

表16 練習日数 (%)

項目	上位	下位	合計
多すぎる	21.9	20.4	21.3
ちょうどよい	74.2	69.1	72.1
少なすぎる	3.8	10.5	6.6

p<0.05

次に、平日の練習時間についての評価を示した表17をみると、練習日数と同様に、ちょうどよいという者が最も多く、70%程度を占めている。下位では上位に比べて短すぎるという者が若干多くなっているが、競技レベルと練習時間の評価との間には関連は認められなかった。しかし、表6に示したように下位では上位に比べて平日の練習時間が2時間未満の者が多く、もう少し練習時間を確保したいという者もいることがうかがえる。

表17 練習時間 (%)

項目	上位	下位	合計
長すぎる	6.9	9.9	8.2
ちょうどよい	75.4	66.9	71.9
短すぎる	17.7	23.2	20.0

n. s.

(2) 試合の回数に対する評価

表18は所属する運動部が出場する試合の回数について評価した結果である。全体では70%程度の者がちょうどよいとしている。多すぎるという者は比較的少なく、少なすぎるという者が20%程度いる。表7に示したように、下位では70%近くの者が大会への出場が5回以下と回答しており、競技レベルの低い運動部に所属する者の中にはもう少し試合への出場機会が得られることを望んでいる者が少なからずいることがうかがえる。

表18 試合の回数 (%)

項目	上位	下位	合計
多すぎる	9.7	4.4	7.5
ちょうどよい	72.1	68.0	70.4
少なすぎる	18.2	27.6	22.1

p<0.05

(3) 活動場所・施設に対する評価

表19は運動部が使用している活動場所・施設についての評価を示したものである。全体としては、充実していると回答した者、充実していないと回答した者、どちらでもないと回答した者、それぞれが三分の一程度を占めている。公立の中学校であるため、それぞれの運動部が十分な活動場所・施設を確保することは困難な状況にあることがわかる。上位、下位を比較すると、上位の方が下位に比べて活動場所・施設に恵まれているように見受けられる。競技レベルの高低によって使用できる場所や施設が影響されていることも予測される。

表19 活動場所・施設 (%)

項目	上位	下位	合計
充実している	40.4	31.7	36.8
どちらでもない	33.5	28.3	31.4
充実していない	26.2	40.0	31.8

p<0.01

(4) 指導者に対する評価

指導者に対する評価について示したものが表20である。全体としては満足している者が50%程度であり、どちらでもない、あるいは不満であるとする者は合わせると50%程度となっており、指導者に対する評価は必ずしも高いものではない。上位と下位を比較すると、上位の方が満足度が高くなっている。これは表14および表15でみたように、上位では指導者の構成において外部指導者が採用されているところが多く、指導の頻度も高くなっており、このことが指導者の評価に反映

しているものと思われる。

表20 指導者 (%)

項目	上位	下位	合計
満足している	59.1	33.7	48.6
どちらでもない	27.8	35.9	31.1
不満である	13.1	30.4	20.2

p<0.001

(5) 所属する運動部の成績に対する評価

所属している運動部の成績についての評価は表21のようになる。全体では不満であるという者が最も多く38.6%を占めている。これは下位において不満であるという者が60%を超えていることに起因する。下位は市内の中学校が出場する大会で上位に入れられないというレベルであり、その成績に満足している者は極めて少ない。競技レベルの低い運動部に所属している者はその成績に不満をもっており、成績の向上を望んでいるものと思われる。

表21 部の成績 (%)

項目	上位	下位	合計
満足している	42.1	5.5	27.0
どちらでもない	35.9	32.0	34.3
不満である	22.0	62.4	38.6

p<0.001

6. スポーツの継続意志

(1) 運動部からの離脱意志

表22は所属する運動部をやめたいと思ったことがあるか、その離脱意志について尋ねた結果を示している。

上位では運動部をやめたいと思ったことはないという者が最も多く49.4%となっている。これに対して下位では、やめたいと思ったことがたまにあるという者が最も多く47.8%を占めている。競技レベルの低い運動部に所属している者の方が競技レベルの高い運動部に所属している者に比べて部をやめたいと思う傾向が強いことがわかる。

表22 部をやめたいと思ったこと (%)

項目	上位	下位	合計
よくある	12.8	15.7	14.0
たまにある	37.7	47.8	41.8
ない	49.4	36.5	44.1

p<0.05

(2) 高校入学後の継続

高校入学後の部活動について尋ねた結果を示したものが表23である。全体として60%程度の者が高校入学後も運動部に加入すると回答している。現在と同じ種目の運動部に加入するという者は上位で47.1%、下位で28.7%となっており、競技レベルの高い運動部に所属している者は高校進学後も同じ種目の運動部に加入したいと思う傾向がみられる。これに対して競技レベルの低い運動部に所属している者は他の種目の運動部に加入したいと思っていたり、わからないというように態度を保留する者が多くなっている。競技レベルの高い運動部に所属している者はその種目での実績があり、実施している種目に対して興味・関心、あるいは愛着心を持ち、高校入学後も引き続きその種目を行いたいと思っているのではないだろうか。

表23 高校入学後の部活動 (%)

項目	上位	下位	合計
同じ種目の運動部に入る	47.1	28.7	39.6
他の種目の運動部に入る	18.9	24.7	21.3
文化部に入る	1.9	4.5	3.0
どちらにも入らない	4.6	5.6	5.0
わからない	27.4	36.5	31.1

p<0.01

7. 学校生活と運動部活動

運動部の活動は学校生活において重要な領域を構成する要素といえよう。以下では運動部への加入者と非加入者の比較を通して、運動部活動と学校生活の楽しさや満足度等の関係について検討する。

運動部への加入状況は表24に示すように、性別により異なっており、性別による影響を排除するため、以下では男女別に分析を行う。

表24 性別 (%)

項目	上位	下位	非加入	合計
男子	59.8	58.6	23.7	47.5
女子	40.2	41.4	76.3	52.5

p<0.001

(1) 友達の人数

表25は同じクラスに何でも話せる友達が何人いるか尋ねた結果を示している。男子、女子のいずれにおいても、何でも話せる友達がクラスに一人もいない者は運動部への非加入者に多い。運動部への加入者は、運動部の活動を通して他の人とコミュニケーションをとる機会を多くもつため、クラスにおいても友人をつくらせているものと思われる。

表25 友達の数 (同じクラス)

男子 (%)				
項目	上位	下位	非加入	合計
0人	8.3	10.8	27.1	12.1
1~3人	33.3	31.4	31.3	32.4
4~6人	27.6	25.5	18.8	25.5
7~15人	14.1	18.6	10.4	15.0
16人以上	16.7	13.7	12.5	15.0

n. s.

女子 (%)				
項目	上位	下位	非加入	合計
0人	5.7	8.2	20.8	13.4
1~3人	59.0	52.1	49.7	53.1
4~6人	25.7	26.0	19.5	22.8
7~15人	6.7	5.5	8.2	7.1
16人以上	2.9	8.2	1.9	3.6

p<0.01

(2) 学校生活の楽しさ

学校生活における様々な活動場面での楽しさの享受状況について以下に示す。

表26は昼休みの楽しさについて示している。全体では男女とも80%以上の者がとても楽しい、あるいは楽しいと回答している。運動部への加入者と非加入者を比較すると、男女とも、とても楽しい、あるいは楽しいと回答している者は非加入者より加入者に多い。特に女子においてこの傾向は顕著である。このように運動部への加入者の方が楽しく昼休みを過ごしている様子がうかがえる。これには、運動部への加入者の方が同じクラスに何でも話せる親しい友達が多くいることに関係していると思われる。

表26 昼休みの楽しさ

男子 (%)				
項目	上位	下位	非加入	合計
とても楽しい・楽しい	84.6	77.4	74.5	80.5
どちらともいえない	10.3	17.0	17.6	13.7
あまり楽しくない・全く楽しくない	5.1	5.7	7.8	5.8

n. s.

女子 (%)				
項目	上位	下位	非加入	合計
とても楽しい・楽しい	89.5	91.9	76.0	83.5
どちらともいえない	5.7	5.4	17.4	11.3
あまり楽しくない・全く楽しくない	4.8	2.7	6.6	5.2

p<0.01

表27は体育祭やクラスマッチなどのスポーツイベントでの楽しさについて示している。楽しさを感じている者は男女ともに70%以上を占めているが、女子に比べて男子の方が楽しさを感じている者が多くなっている。運動部への加入者と非加入者を比較すると、男女ともに、明らかに運動部への加入者の方が楽しさを感じている者が多い。運動部への加入者では男女とも上位、下位の間にほとんど差はなく、競技レベルに関係なく、日常的にスポーツを実施することによりスポーツに対する肯定的感情・意識が生起してくるものと思われる。

表27 体育祭やクラスマッチなどのスポーツイベントでの楽しさ

男子 (%)				
項目	上位	下位	非加入	合計
とても楽しい・楽しい	83.3	80.2	58.8	78.3
どちらともいえない	10.3	9.4	25.5	12.5
あまり楽しくない・全く楽しくない	6.4	10.4	15.7	9.3

p<0.01

女子 (%)				
項目	上位	下位	非加入	合計
とても楽しい・楽しい	85.7	86.5	60.5	73.7
どちらともいえない	9.5	10.8	19.8	14.7
あまり楽しくない・全く楽しくない	4.8	2.7	19.8	11.6

p<0.001

表28は文化祭や合唱コンクールなど、文化的イベントでの楽しさについて示している。

文化祭や合唱コンクールなど、文化的イベントでの楽しさについてみると、男子では表27に示したスポーツイベントに比較して楽しさを感じている者は20%程度減少している。文化的イベントは男子では女子に比べて楽しさに関する評価は低い。

運動部への加入者と非加入者を比較すると、男子では非加入者において、あまり楽しくない、あるいは、全く楽しくないと回答した者がやや多くなっているが、運動部への加入状況と文化的イベントにおける楽しさの享受間には関連は認められない。

女子においては、運動部への加入者の方がとても楽しい、あるいは、楽しいと回答した者が多く、スポーツイベントと同様に文化的イベントでも楽しさを感じている者が多くなっている。学校生活における種々のイベントに対して、運動部への加入者は積極的に関与し、楽しさを享受しているように思われる。

表28 文化祭や合唱コンクールなどのイベントでの楽しさ
男子 (%)

項目	上位	下位	非加入	合計
とても楽しい・楽しい	60.3	55.7	54.9	57.8
どちらともいえない	25.0	30.2	21.6	26.2
あまり楽しくない・ 全く楽しくない	14.7	14.2	23.5	16.0

n. s.

女子

n. s.

項目	上位	下位	非加入	合計
とても楽しい・楽しい	81.9	82.4	68.3	75.4
どちらともいえない	13.3	14.9	21.6	17.6
あまり楽しくない・ 全く楽しくない	4.8	2.7	10.2	6.9

p<0.05

表29はクラスメートとの人間関係に関する楽しさについて示したものである。女子に比べて男子の方が楽しさを感じている者が多くなっている。表25に示したように、男子の方が女子に比べてクラスでの友達の人数が多く、多くの仲間と活発に交流しているものと推察される。

上位と下位を比較すると、男子、女子のいずれにおいても、運動部への加入者の方が非加入者より楽しさを感じている者が多くなっている。特に男子および女子の上位においてその傾向が顕著である。運動部での人と関わる経験が、運動部以外の学校生活の領域においても生かされ、クラスメートとも積極的に関わりをもって活動しているものと思われる。

表29 クラスメートとの人間関係での楽しさ
男子 (%)

項目	上位	下位	非加入	合計
とても楽しい・楽しい	81.4	79.2	64.7	78.0
どちらともいえない	12.8	9.4	27.5	14.1
あまり楽しくない・ 全く楽しくない	5.8	11.3	7.8	8.0

p<0.05

女子

n. s.

項目	上位	下位	非加入	合計
とても楽しい・楽しい	86.7	68.9	62.3	71.1
どちらともいえない	8.6	24.3	25.1	19.9
あまり楽しくない・ 全く楽しくない	4.8	6.8	12.6	9.0

p<0.001

表30はクラス担任との人間関係での楽しさについて示している。男子では、運動部への加入者に比べて非加入者において、どちらともいえないという中間的な

回答を返す者が多くなっているが、運動部への加入状況とクラス担任との人間関係での楽しさとの間には関連は認められなかった。

女子では、運動部への加入者において非加入者に比べて、とても楽しい、あるいは、楽しいと回答する者が多くなっている。これとは逆に、あまり楽しくない、あるいは、全く楽しくないと回答する者は運動部への非加入者で多くなっている。女子においては、クラス担任との人間関係においても、運動部への加入者の方が良好な人間関係を形成する傾向があるように思われる。

表30 学級担任との人間関係での楽しさ
男子 (%)

項目	上位	下位	非加入	合計
とても楽しい・楽しい	52.6	55.7	47.1	52.7
どちらともいえない	28.8	32.1	41.2	31.9
あまり楽しくない・ 全く楽しくない	18.6	12.3	11.8	15.3

n. s.

女子

n. s.

項目	上位	下位	非加入	合計
とても楽しい・楽しい	57.1	48.6	38.9	46.5
どちらともいえない	31.4	39.2	35.3	35.0
あまり楽しくない・ 全く楽しくない	11.4	12.2	25.7	18.5

p<0.01

(3) 学校生活への満足度

学校生活には様々な領域があり、それらが複合して全体としての学校生活を構成している。運動部の活動もその構成領域の一つであるが、運動部に加入している者にとってその活動は、学校生活において重要な位置を占めているといえよう。

表31は現在の学校生活への満足度を示している。男子、女子のいずれにおいても、とても満足している、および、やや満足していると回答した者を合わせると80%を超えている。大部分の者は現在の学校生活に満足しているといえよう。

運動部への加入者と非加入者を比較すると、男子では、とても満足していると回答した者は運動部への加入者で35%程度を占めており、非加入者の25%を10%程度上回っている。また、あまり満足していない、および、全く満足していないと回答した者を合わせると、運動部への加入者のうち上位では12%程度であるのに対して下位および非加入者では20%を超えており、競技レベルの高い者では競技レベルの低い者や運動部への非加入者よりも学校生活への満足度が高くなる傾向

がみられたが、検定の結果では運動部への加入状況と学校生活への満足度との間には関連は認められなかった。

女子では、とても満足していると回答した者は運動部加入の上位で36.5%、下位で32.4%を占めており、運動部非加入者の25.1%を上回っている。特に運動部加入の上位では満足度は高く、とても満足している、および、やや満足していると回答した者を合わせると91.3%に及ぶ。また、全く満足していないと回答した者は運動部加入の上位および下位では運動部非加入者に比べて少ない。

以上のように学校生活への満足度は運動部への加入者、特に競技レベルの上位において高くなる傾向がみられた。特に女子においてその傾向は明確であった。

表31 学校生活への満足度
男子

項目	上位	下位	非加入	合計
とても満足している	36.1	34.0	25.0	33.5
やや満足している	51.6	44.3	53.8	49.5
あまり満足していない	6.5	13.2	15.4	10.2
全く満足していない	5.8	8.5	5.8	6.7

n. s.

女子

項目	上位	下位	非加入	合計
とても満足している	36.5	32.4	25.1	30.1
やや満足している	54.8	51.4	52.7	53.0
あまり満足していない	7.7	13.5	14.4	12.2
全く満足していない	1.0	2.7	7.8	4.6

p<0.05

IV 結 語

本研究では、中学校の運動部の活動実態、運動部加入者の運動部に対する意識・満足度について、部の競技レベルと関連させながら分析を行った。さらに学校生活の満足度等について、運動部未加入者と比較しながら検討してきた。その結果の概要は以下の通りである。

中学校の運動部の活動実態について、練習日数は競技レベルに関係なく一週間に6日以上の方が多く90%程度を占めている。平日の練習時間は競技レベルに関係なく一日当たり3時間未満の方が多く、

大会への出場回数は競技レベルの高い部に所属する者の方が多い。また、部の活動への参加頻度は競技レベルの高い部に所属する者の方が高く、活動に積極的に取り組んでいる状況が明らかとなった。さらに、ス

ポーツに対する意識では、競技レベルの高い部に所属する者の方が勝利を志向する傾向にあることがうかがえた。

部員との人間関係では、競技レベルの高い運動部に所属する者の方が同学年や下級生の部員と良好な人間関係を結んでいる。この良好な人間関係が競技レベルを高める基礎となっているものと思われる。

指導者については、競技レベルの高い運動部では、その構成において、学校の教員に加えて学外の指導者が配置されていることが明らかとなった。そして、部活動の指導頻度は、競技レベルの高い運動部の方が高くなっている。外部指導者の導入により指導頻度が高まっているものと思われる。

部活動に対する評価についてみると、競技レベルの低い部に所属する者では練習日数や試合の回数が少なすぎるといった評価、あるいは、活動場所・施設が充実していないという評価がなされる傾向があり、これらの改善も今後望まれるところとなる。また、指導者に対する評価は、競技レベルの高い運動部に所属する者の方が高く、部の成績に対する満足度も高くなっている。

学校生活との関係をみると、運動部への加入者では非加入者に比べて同じクラスの友達の数が多い傾向にある。また、昼休みの楽しさにおいても楽しいとする者が多い。この傾向は特に女子において顕著である。運動部への加入者は部の活動において他者とコミュニケーションをとる機会を多くもつため、コミュニケーション能力が高まり、クラスにおいてもクラスメートと積極的な交流ができていているものと思われる。また、スポーツイベントや女子においては、これに加えて文化的イベントにおいて、楽しさを十分味わっており、多く仲間と活発に交流していることがうかがえた。さらに、運動部への加入者では、クラスメートや学級担任との人間関係が楽しいとする者も多く、学校生活全体に対する満足度も高くなっている。

中学校における運動部の活動には生徒の人間関係を深め、学校生活を充実させ、学校生活の満足度を高める機能が期待できることから、今後、その活動が十分展開できるよう、適切な対応が求められる。

文 献

藤原誠 (1997) 子どものスポーツに関する研究—スポーツクラブからの離脱を中心に—。愛媛大学教育学部保健体育紀要 第1号, pp. 21—34。
藤原誠, 堺賢治 (2003) 中学生のスポーツクラブへの

- 加入に関する研究. 愛媛大学教育学部保健体育紀要第4号, pp. 29-38.
- 藤原誠, 堺賢治 (2004) 子どものスポーツクラブ活動に関する研究-試合への出場状況と活動意識-. 愛媛大学教育学部紀要 第51巻, 第1号, pp. 121-128
- 神奈川県教育委員会教育局保健体育科 (2008) 中学校・高等学校生徒のスポーツ活動に関する調査報告書.
- 文部科学省 (2006) スポーツ振興基本計画 (改定).
- 文部省 (2000) スポーツ振興基本計画.
- 文部省 中学生・高校生のスポーツに関する調査研究協力者会議 (1997) 運動部活動の在り方に関する調査研究報告.
- 東京都教育委員会 運動部活動の実態に関する調査研究協力者会議 (2002) 運動部活動の実態に関する調査研究報告書.
-